

# 日本的家族経営のススメ

## 世界はジャパンスタードを待っている！

株式会社アイパートナー 代表取締役 三村 邦久

### 6) 日本人のメンタリティーを活かす

#### 島国根性の功罪

ある会社の経営会議に出席したときのことで。アメリカ子会社のアメリカ人ゼネラルマネジャーが日本本社のことについて意見を求められ、「日本はIsland Mentality」（≒島国根性）が強い」と言ったことを鮮明に覚えています。アメリカからヨーロッパ、そしてアラブ世界まで営業していたそのマネジャーからすれば、日本のスタッフは視野が狭く、閉鎖性があると感じていたのでしょう。

今の時代、海外と関係なく仕事をしていける会社はほとんどなく、グローバルな活動は当たり前です。そこで問われるのは、外の世界にオープンで異質なものを受容するダイバーシティ（多様性）です。

遡れば、260年以上続いた江戸時代には鎖国により、外国との自由な交流を制限してきました。その間に、欧米で進んでいた科学技術の進展から大きく遅れをとり、江戸末期には危うく欧米諸国に植民地化される危機に瀕しました。

しかし、本質的に日本人は異文化を受け入れない受容性の乏しい国なのでしょうか。むしろ、日本人はダイバーシティに優れた民族

ではないかと思えます。日本は多神教の国であり、昔から大陸の文化や技術をどんどん受け入れて独自の日本文化を形成してきました。日本古来の神道に、仏教・儒教・道教・禅と新しい思想を受け入れ、発酵させ独自の文化を育んできました。現代ではクリスマスやハロウィンなど、商売の道具とされている感はありますが、我々の日常生活に入り込んでいます。

つまり、今でも日本は舶来志向が続いています。

本当の問題はダイバーシティ以前に、自国の歴史や文化をしっかりと学んでいないことではないでしょうか。そんな基礎も身につけず、外国のことを崇拜するのは本末転倒な話です。

また、島国根性と同類の言葉にガラパゴス化というものがあり、世界から取り残されたものの象徴のようにいわれています。その引用のもとになっているガラパゴス島は、南米大陸のエクアドルから西へ900キロにある120以上の島々のことです。そこには他では見られない、独自性の高い種がいることで世界的に有名となり、世界遺産にも登録されています。確かに閉鎖性は排他的というマイナス面がありますが、周囲の動きか

—ここでの家族経営とは、同族で利益を独占する公私混同の経営を指すのではなく、社員を家族のように大事にする人間的経営を言う—

- 1) 金と人、どっちが大事
- 2) 自主と自由、人間の尊厳を守る
- 3) 個性を潰す評価制度
- 4) 匠、仕事を極め楽しさを追求する
- 5) 日本人のグローバル化
- 6) 日本人のメンタリティーを活かす

ら隔離されるというプラス面もあります。

つまり、閉鎖性は独自の種や文化を生み出す環境をつくるということです。例えば、合掌造りで有名な日本の白川郷は、あまり便利な場所とはいえません。自動車のなかった時代を考えれば、かなり閉鎖性の高い場所といえるでしょう。外部との交流が少なかったからこそ、気候風土に合った独自の建築や生活様式を形成していったのでしょう。

同様に、江戸時代は外国との交流はなく、幕府の強権のもとで閉鎖的な時代でした。しかし、浮世絵や歌舞伎など日本独自の文化が形成された時期でもありました。浮世絵はゴッホなど西洋美術に大きな影響を及ぼしましたし、その描写技術が世界に誇るアニメにも引き継がれているといわれます。

こう考えると、日本人の島国根性の閉鎖性もそのマイナス面を改めつつ、プラス面である日本独自の文化の価値を見直し、活かしていくことが大事なのではないでしょうか。

#### 日本人の心とは

「お・も・て・な・し」。この言葉は、2020年のオリンピック招



三村邦久(みむら くにひさ) 社長参謀

1961年兵庫県生まれ。酒米の王様「山田錦」を育てる父親の愚直な働き方を見て育つ。神戸商科大学(現兵庫県立大学)卒業後、電子部品メーカーに就職。27歳で中小企業診断士資格を取得、経営コンサルタントに転身。中小・中堅企業に対し、業務のIT化、経営管理、評価賃金などの経営システムを構築し、組織運営の円滑化に貢献する。経営の継承、新規事業立上げにも携わり、社長の「夢と悩み」を共有し、会社と人の天性を顕化させることをモットーとしている。著書『愚直経営で勝つ! 経営者9人のチャレンジストーリー』(PHP研究所)

▶座右の銘「収穫を問う莫かれ、但だ耕耘を問え」

致で注目を集めました。マニュアル化されたサービスではなく、1人ひとりが相手の立場に立ち、気持ち慮(おもんば)かり、何かをして差し上げる。これは日本が世界から評価される礼儀の根本になるものです。

礼儀とは、相手を敬い自らを省みること。具体的には、自分の勝手な言動で周囲を不快な気持ちにさせない。肩書や地位に関係なく相手の人間性を尊重する。偉くなくても傲慢になることなく、謙虚で品性がある態度を維持する。そんな意味でしょう。

日本人は自分の意見を主張することは苦手で、そこは必ず克服しないといけません。しかし、同時に日本人の良さである謙虚さと礼儀正しさも忘れることなく、その日本的な心に磨きをかけねばなりません。

我々日本人の十八番であった物づくり、特に量産化技術も今では、台湾や中国に遅れをとるようになってきました。また、グローバルなマーケティング活動を展開して、世界のビッグマーケットを支配することはあまり得意とはいえないでしょう。

ならば何を武器に勝負していくのか。そこで、日本人の強みである清廉さや繊細さ、そして謙虚さを武器にして戦略を組み立てるべきではないでしょうか。島国根性の弱点を克服しながらも、ローカ

ルで特異な市場にマッチさせていく力を活かすべきでしょう。

例えば、お隣の中国、人口13億人のうち10人に1人が日本ファンだとすれば、日本の人口と同じ市場があることになります。下手に西洋の真似をするより、日本の特性を活かしながらローカル化していく。ここに、日本人の多様な文化を受け入れるDNAを活かしていくべきでしょう。

## 成功の秘訣

ここで、日本らしさを考えるうえで、内村鑑三の言葉をご紹介します。前号では新渡戸稲造の「武士道」について述べましたが、彼も同じクリスチャンです。アメリカに渡り苦難に満ちた生活を送るなかで、日本の良さを再認識しました。

彼が日本に戻り、軽井沢・星野温泉の当時の若主人に「成功の秘訣」と題し、こんな言葉を贈っています。

- 一. 自己に頼るべし、他人に頼るべからず。
- 一. 本を固うすべし、然らば事業は自づから発展すべし。
- 一. 急ぐべからず、自動車の如きも成るべく徐行すべし。
- 一. 成功本位の米国主義に倣うべからず、誠実本位の日本主義に則るべし。
- 一. 濫費は罪悪と知るべし。
- 一. 能く天の命に聴いて行うべ

し、自ら己が運命を作らんと欲すべからず。

- 一. 雇人は兄弟と思ふべし、客人は家族として扱ふべし。
  - 一. 誠実に由りて得たる信用は最大の財産なりと知るべし。
  - 一. 清潔、整頓、堅実を主とすべし。
  - 一. 人もし全世界を得るとも其靈魂失わば何の益あらんや。人生の目的は金銭を得るに非ず、品性を完成するにあり。
- 以上

## 世界の手本になる

現代の日本人の問題は、売上に利益、GDPなど数値に翻弄され、お金より大事なものを忘れかけていること。知識やスキルに偏重し、人の心を直視していないこと。そして、自分の心を正しく透明性を保つことを蔑ろにしていることです。

金儲けが上手でもエコノミック・アニマルと蔑視されるだけ。誠心誠意で働き、立派な生き方の手本となるべきです。会社も家族同様に人の命と和を基本において、父性的な義愛と母性的な慈愛を持った秩序ある組織に戻すべきでしょう。

そんな日本人独自のメンタリティーを活かした高い品格を持った日本的経営こそ、世界の手本となり尊敬される日本の財産なのではないでしょうか。